

堀内議員 初めて一般質問するので、的外れのことを言うかも知れませんが、お手柔らかにお願いします。津波避難マップ配布についてご質問させていただきます。既存の町民への津波避難マップなどは配布されていますが、移住者やUターンの方の中には、よく分からないとの声も聞きます。もちろん、町のホームページにはきちんと記載されているのですが、広報へ津波マップの受け取り方法の記載や転入者等への窓口での配布をしてはどうでしょうか。続いて、保育園についてご質問させていただきます。私も含め夫婦共働き率が増える中、保育園への児童館同様、柔軟な対応を求める声をよく耳にします。病中病後保育が可能になれば家庭や家計への負担も大きく軽減し、より子育てしやすい環境が整うはずですが、非常に難しい問題ですが、おひさまスクールとうまく連携し従来の保育のあり方を見直してみてもいかがでしょうか。続きまして、モラスコむぎ運営についてご質問させていただきます。来場者数も減り、クラブノアの運営もかんばしくないと聞きますが、実際はどのような状況でしょうか。また、今後の運営継続に対しての事業計画など、内容、計画はどのようになっていますか。続いて、南阿波よくばり体験について質問させていただきます。近年、素晴らしい取り組みが実を結び来町数も増え、年間約10,000千円近くも牟岐町への功績を出すプロジェクトですが、今後の事業計画はどのようなものになっていますか。もちろん、牟岐町だけの事業ではないので、独断で判断できる内容ばかりでないですが、スタッフの人手不足を解消するためにも法人、民営化を目指して雇用につなげることを視野に入れた活動をしてはいかがでしょうか。観光事業について質問させていただきます。牟岐町には実質的な観光課がなく、産業課との兼任が実状ですが、現実問題、今の人員で観光事業に取り組むことは可能でしょうか。また、各団体との連携の中、観光インフラの整備はどのように進めていく予定でしょうか。続きまして、旧牟岐小学校改修についてご質問させていただきます。旧牟岐小学校改修し、「ひとつむぎ」等の学生団体の活動拠点や滞在場所に使用されることは素晴らしいアイデアですが、今後、彼らが大学を卒業した際に各団体の運営継続は予測できないのが現実です。その際に改修費用の回収方法などはどのような計画でしょうか。また、今後ワークショップやカフェスペースとしての利用も含むとありますが、管理者や売り上げ見込み等の事業計画はどのような内容でしょうか。続きまして、町指定文化財についてご質問させていただきます。住民数の減少などが原因で祭事の地車、だんじりなどが光を浴びないことを憂い、「関船保存会」「西浦花車保存会」「勇太鼓保存会」も結成され、再び秋祭りを盛り上げ観光につなげていこうという動きが活発になってきています。この際、この3点を町指定文化財に登録し、町外への観光アピールに活用してはいかがでしょうか。最後に高齢者の通院状況についてご質

問させていただきます。高齢者率も44.9%と、今後も増える見込みの中、現在、自身で通院できている方も今後は難しくなることが予想されますが、現状はどのような状況でしょうか。西又などの地区からタクシーで通院した場合は、往復で2千円以上かかり、年金生活の高齢者の方には深刻な問題です。人件費など難しい問題ですが、スクールバスなどと連携し、無料バスなどを視野に入れた取り組みを検討してみてはいかがでしょうか。以上、8点質問させていただきます。

枅富議長 福井町長。

福井町長 非常にたくさんご質問いただいていますので、私の方からはモラスコむぎの運営、南阿波よくばり体験、観光、高齢者の通院バスについてお答えします。まずモラスコむぎの運営ですが、議員ご指摘のとおり、東日本大震災以降、ダイバーの数が激減し、非常に厳しい運営を続けていると聞いています。昨年も1,000千円近い赤字が出たとのこと。クラブノアの代表のご意見は、海をもっと自由に活用できれば経営状況は良くできるとのことですが、現時点ではクラブノアの要望どおりの創業できる同意は得られていません。先日もクラブノアの代表者の方と漁協の関係者の間で協議をしましたが、現時点では、漁業の水揚げの減少が続いているもののダイビング数の増加や海洋レジャーの支援にシフトするなど、現状を変えることは困難な状況です。今後、現在進めています、地方創生戦略計画の中でモラスコむぎの運営やクラブノアの運営について協議を進めながらも漁業の再生、海洋レジャーによる収益も視野に入れた活性化策を検討していく必要があると考えています。つぎに南阿波よくばり体験ですが、議員ご指摘のとおり、平成16年の事業着手以降、このよくばり体験事業は右肩上がり業績が伸びてきています。ただ、近年、他の市町村でも取り組みが加速しており、今後の展開は予断を許さないものがあると思っています。しかしながらも2016年度からは国が教育旅行の誘致に積極的にかかわることもあり、想定外の拡大も予想されます。したがって、これまでも民営化に向けた検討を実施し、現在の入り客数では採算性から引き受け手がいないという結論になっていますが、今後とも事業拡大に取り組むとともに各町の負担の増減も含め民営化に向け検討を続けてまいりたいと考えています。つぎに観光振興ですが、確かに牟岐町には観光に特化した観光課はなく、産業課として徳島県の商工労働観光部及び農林水産部に該当する業務を1つの課で兼務しています。昭和40年代後半、牟岐町の人口が1万人近かった頃は観光課がありましたが、バブル時代が終わりリゾート開発の波が引くとともに観光専門課

がなくなり現在に至っています。過疎化により町の人口が急速に減少する中、財政的にも職員の定数確保が困難になり、現在の対応となっています。そして、現在は海部病院移転関係事業や出羽島の重伝建選定事業を集中的に進める必要もあり、これらの事業に重点配備をしている状況にもあります。このようなことから近い将来、病院関係工事も完了し出羽島の重伝建選定作業も完了すれば、現在進めている地方創生計画の中で観光振興と交流人口の増加を進める担当課を設置することも検討する必要があると考えています。また、観光インフラの整備についてですが、これまで牟岐町は鬼ヶ岩屋温泉やモラスコむぎなど建物の観光インフラの整備に取り組んでいますが、この恵まれた自然や歴史文化を最大限活かしたような整備はされていません。これまで牟岐町は漁業や林業、商工業を中心とした生計を立てられてこられたところもありますので、町民の皆さんも交流人口を増やし客を取り込もうという意欲は少ないように思います。今後、地方創生を図るためには観光振興を欠かすことはできないと考えていますので、皆さん方のご意見をいただきながら、必要なインフラ整備を行ってまいりたいと考えています。つぎに高齢者の通院バス等の状況についてです。平成26年度に実施した、生活機能評価調査によりますと、通院している方の5%程度が介護、介助が必要であり、家族等の支援、介護タクシーなどを利用しているようですが、牟岐町ではさらに寝たきりの人などを対象に専用の移送用車両の外出支援サービスも行っています。議員ご指摘の無料バスなどの導入についてですが、牟岐町では現在スクールバスを無料で運行しています。将来的に海部病院が高台移転し、高齢化も一層進行した場合、確かに現在よりご自宅、駅からの交通手段に困窮する方が増えることも予想されますので、今後、町内交通機関の運営事業者などとも連携し、スクールバス、デマンドバス、観光バスなどを効率的、かつ経済的に運行できる方法を検討してまいりたいと考えています。私の方からは以上です。

枅富議長 仁田総務課長。

仁田総務課長 それでは、堀内議員のご質問の中で津波避難マップの配布につきまして、私の方からお答えをさせていただきます。津波避難マップにつきましては、徳島県が公表しました津波浸水想定を基に指定されました「津波災害警戒区域」と「緊急避難場所」津波から逃げるための緊急避難場所及び「津波避難ビル」を主に地図に表示しています。このマップにつきましては、昨年5月に全部のお宅に配布させていただきました。また、牟岐町をはじめ訪れる方もいますので、町内の公共的な建物につきましては、掲示してい

ただけますように、それぞれのところに配布をさせていただいています。また、全戸配布した後で紛失されたとか、新たに転入された方で役場の方へ申し出のありました方につきましては、それぞれお渡しをしています。役場の窓口でお申しいただければお渡しできますので、よろしくお願ひしたいと思っています。議員ご質問の広報紙への掲載については、広報紙、紙面の関係もありまして、それと、住民さんからの要望は、避難マップだけでなくいろいろな方面の要望があります。そういうふうなこともありまして、紙面の関係上、なかなかそれらをこれほどここへ行ってくださいというのを毎回の紙面に載せるのは、なかなか難しい面もあります。その辺ご配慮いただきたいと思ひます。窓口で何事にいたしましても役場の窓口で職員の方にご相談いただければ、それぞれ対応できますので、その辺、よろしくお願ひしたいと思ひます。

枅富議長 久岡住民福祉課長。

久岡住民福祉課長 それでは、私の方から保育園の質問について、お答えさせていただきます。保護者の方々からのイメージとしては、質問にありますような児童館のような場所が保育園児に対してもあればと考えられるのだと思ひますが、小学生の放課後対策としてある児童館にかわるものとして本町では、今現在、おひさまスクールで対応しています。また、保育園の園児につきましては、今のところ延長保育という形で対応しています。病中病後保育についてですが、これについては以前から本町でという要望があったようですが、その施設において看護師の資格を持っているものの常駐、毎年の研修の実施、病気のお子さんを隔離できる場所の確保等、財政面から現在、保育園にその場所を設けるということではできていないようです。しかしながら、おひさまスクールと同様に牟岐町の社会福祉協議会に委託しているファミリーサポートセンターにおいて、地域の連携という形で子どもを見て欲しいという方、それを依頼会員と言ひます。子どもを見てあげたい方、これを提供会員と言ひます。これをあらかじめ登録してもらひまして、ファミリーサポートセンターが橋渡しをするということで病中病後保育にもサポートセンターの方で対応しています。おひさまスクールとの連携ですが、本来、放課後児童健全育成対策としてスタートしています。小学生、児童ということで、小学生が元々対象となっています。したがって、発育段階の違いなどから必然的に小学生と園児とは活動内容も違い、活用を共有して運営するのは難しく、また、先ほど檜谷議員の質問にもありましたように、現在、小学1年生から3年生までの受け入れをおひさまスクールで行っています。副町長の説明にもありま

したが、来年4、5、6年生になるお子さんのために、今年3、4、5年生の保護者の方にアンケートをとってニーズを確認したいと考えています。それで、小学校6年生までを拡充するという方向に動こうと考えていますので、保育園児とおひさまスクールとの連携というのは、今現在難しいと考えています。

枅富議長 久米教育次長。

久米教育次長 私からは、質問2点について回答させていただきたいと思います。まず1点目、牟岐小学校改修の件についてです。現在、旧牟岐小学校跡地施設は、社会体育の拠点として、子どもから中高年まで幅広く利用されています。また、校舎の空き教室におきましては、子育て支援、観光支援等の取り組みなどが行われています。このことから改修後は、本施設も含めまして、河内地域活性化センター、出羽島交流施設等と連携しまして町内外の人の交流を生み出し、それをつなぎ最終的には地域力を高めるネットワーク構想の中心的な拠点施設ということで位置付けられるものではないかというふうに考えています。そこでこの施設の活用的一端を担うこととなります、既に活動されていますが、ひとつむぎ、グリーンバードといった大学生の団体の今後の組織運営に関するご質問と思うのですが、昨年のサマースクール、この運営主体の学生を中心に牟岐町への思い、そこから生まれたひとつむぎは、今年法人化をされています。活動主体は理事長をはじめ、現役大学生ですが、顧問には社会人も名を連ねています。サマースクール関係学生以外にもメンバーを随時増強しているというような状況です。また、このひとつむぎには、牟岐町出身の大学生も所属しています。一方、組織の運営に関しましては、財政面も含めまして継続的な活動を目指している団体ですので、出る学生もいればサマースクールの継続性も考えますと、学生というのは回転しながら運営は継続されていくというふうに私どもは見込んでいます。もう一つのグループ、グリーンバードですが、これは全国的な組織体でして、徳島市のメンバーが主に徳島県内域で活動を行っているところです。徳島市に事務局があります。徳島歯科センターというところで、これは社会人が運営をしまして、事務局として活動を支えているところです。このことから両団体ともメンバーの入れ替えを行いながら継続していくものというふうに考えますし、牟岐町への係わりへも継続されていくものというふうに考えています。それ以外にもその他の大学、具体的に言いますと、文理大学、四国大学、徳島大学、鳴門教育大学等々からのオファーと申しますか、牟岐町をフィールドにというお話も現実にはいただいているところですが、そういったことを考え

ますと、こういった学生の幅も広がっていくのではないかと考えます。ただ、後に申しました大学については、学校教育の一環で牟岐町に入ってくるものが予想されます。先に挙げました、ひとつむぎやグリーンボードにつきましては、牟岐へという思いで学生さんが個人的に関わってくれています。しかも法人団体まで設置してという思いの強さというところで、活動については差別化されるのかなというふうに考えています。もう1点、改修施設の運営という観点からのご質問ですが、改修の目的は先般の全協でもお示ししたとおり、地方創生事業を活用して牟岐町を将来につなげる人材の創出、それを育成するという場を創り出すということが大きな狙いです。資料にもありましたように改修の中身、トイレの改修、カフェ機能、無線LAN環境、これらなどは地域住民の方々、牟岐町の地域住民の方々の相互の交流、それから、町外の方々との交流、そして活動、それと教育支援、あるいは、まちづくり支援で関わる町内外の方々の活動、滞在、あと出羽島伝建の事業に関しての視察者への対応の場であるとか、天気が荒れた場合の代替え対応の場、これらを円滑に行うための施設としての付加機能を備えるための改修というふうに捉えていただければと思います。また、ワークショップ等によって、これは交流や活動の機会、それから、町内への在住者の方々への気運を高めていくための手段ということで捉えています。交流施設の管理につきましては、当面は行政が担当していくものと想定していますので、この施設におきましての収益費用とういのは想定していません。ただ、将来的には、こうした活動の中から主体的にまちづくりに関わる団体等への管理運営へ移行していくことが望ましいであろうというふうに考えています。改修後のソフト事業につきましては、そういった観点で展開していくと、これが大切かと考えていますし、そういった考えを持って事業を展開していきたいというふうに考えています。つぎに町指定の文化財に関するご質問についてです。関船など町指定文化財へということですが、教育委員会としての立場での回答です。教育委員会では純粋に文化財的な価値があるかどうかの審査を行うというふうになっていまして、手順としましては、所有者、または管理者の方が登録したい物件の文化的価値を明らかにした上で教育委員会へ申請していただくこととなっています。教育委員会はこの申請を受けまして牟岐町文化財保護審議委員会へ諮問をします。お諮りするわけです。審議会で審査されて認定された物件については、教育委員会が町の指定文化財として指定させていただきまして、所有者に対して指定書を交付するという事務的な流れですが、こういうふうな流れになっています。物件の区分によっては多少変わりますが、関船等に関しましては、そのものが持つ歴史的価値が文化財として町民のかけがえのない共通の財産として将来に亘って末永く保存していくべきものとして適正であるか。こういった

ことが本物件の認定基準になろうかと思えます。指定された場合の指定物件の活用等に関して教育委員会の立場としてご説明しておくこととしましては、例えば、物件が指定された場合は、条例によって町民共通の財産として適正な保護、管理というのが義務付けられています。この保存管理ということと、物件の本来の役割である祭事、お祭り等での引き回しや巡行に際して不都合が生じる場合がないとも限りません。こういったことがありますので、申請にあたりましては、所有者と教育委員会との間で十分な事前協議というのが必要であると考えています。

枅富議長 百々健康生活課長。

百々健康生活課長 私の方からは、高齢者の通院状況について、状況のことについて少しお話しさせていただきます。通院の困難者については、移動手段について家族等の支援、タクシー事業者、介護タクシーを利用している状況にあると思われます。本町では緑風荘と社会福祉協議会に委託して移送用車両、リフト付きの車両及びストレッチャー装着のワゴン車により座位保持困難者及び寝たきりの方を対象に、居宅と医療機関等との間を送迎する外出支援サービスを実施しています。病気治療のため通院及び入退院の利用も可能となっています。牟岐町高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画、これについては、平成27年度から29年度の計画ですが、その基礎資料とするため、今後の高齢者福祉施策の方向性や介護サービスの必要性を決めるため、高齢者の課題やニーズの把握をすることを目的とした生活機能評価調査の平成26年8月の結果による通院状況を見ると、通院している方の全体の80%です。通院している方の通院頻度については、月1回程度が49.6%、次いで2か月に1回程度が18.8%です。さらに通院時に介護が必要、介助が必要かということを探ねますと、「はい」については、4.3%、「いいえ」については66%となっています。このことから、また、将来的には通院のみならず、買い物とか外出する機会の提供のためには、移動手段の確保は、重要な課題と考えています。

枅富議長 堀内議員。

堀内議員 丁寧なご説明ありがとうございました。何点か再問させていただきます。モラスコむぎについては、難しい問題だと思うのですが、できるだけ検討していただきたいなと思います。みなみ阿波よくばり体験にしてもそうですし、観光事業についてもそうですし、保育園について、なかなかジャンルが違うと言いますか、違う問題なので、かなり

複雑ですし、難しい、すぐに対応できる問題でないと思うのですが、質問にも説明させていただいたとおり、従来のあり方を一度はずして柔軟な考え方というので、できる、できないは別でも、そのスタンスでいろいろ協議していただければと思いますので、よろしくお願いします。旧牟岐小学校改修については、いやらしい質問のようになってしまったのですが、基本的には素晴らしい企画だと思っています。そういう施設ができることによって、今まで取り組めなかった学生、団体や他団体に対するアピールであったりという効果もあると思うのですが、やはり素晴らしいアイデアであるだけに、なかなか事業を運営していく決行を少しシビアに考えていただきたいというのが率直な意見です。文化財につきましては、勉強不足で申しわけないのです。各保存会に通達しておきます。高齢者の通院状況についてなのですが、もちろん、現段階では必要性は、どちらかと言うと、そんなに高くないと思うのですが、この割合でいくと、おそらく10年、20年になると飛躍的に上がるであろうと思いますので、上がる時のスピードはかなり速いと予測されますので、今の内からできるだけ検討をよろしくお願いします。